



「乙吉のだるま」誕生に関わった三人の男たち

小泉八雲

(小泉八雲記念館提供)

焼津の魚屋 山口乙吉

(焼津小泉八雲記念館提供)

藤枝だるま三代目 内田作太郎

(長橋家提供)

藤枝市郷土博物館企画展

小泉八雲が愛した 藤枝だるま展

令和8年2月21日(土)～4月12日(日)



藤枝だるま店の庭先に並べただるまの木型(1996年、松永都氏撮影)

八雲だるま(乙吉だるま)と木型【長橋家寄贈】



藤枝市郷土博物館・文学館

藤枝市 協力／長橋家、焼津小泉八雲記念館、静岡福祉大学附属図書館



[休館日] 月曜日(2/23は開館)、2/24火

[開館時間] 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

[入館料] 大人200円(団体20名以上160円)
中学生以下無料、障がい者手帳等をご提示の方無料

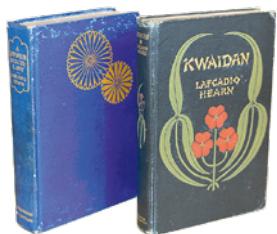
〒426-0014 静岡県藤枝市若王子500(蓮華寺池公園内) TEL 054-645-1100 FAX 054-644-8514 Email muse@city.fujieda.shizuoka.jp

NHK朝の連続テレビ小説「ばけばけ」は、『怪談』の作者である小泉八雲（ラフカディオ・ハーン、1850-1904）とその妻・セツ（1868-1932）をモデルにしています。1896年（明治29）、東京帝国大学英文学科の講師となった八雲は、翌年8月、セツら家族とともに初めて焼津を訪れ、浜通りの魚屋・山口乙吉宅に滞在し、焼津で海水浴を楽しみました。焼津の海を気に入った八雲は、以後、亡くなる1904年までの8年間で、避暑のため、6回の夏を焼津で過ごしました。乙吉宅での思い出を綴った随筆作品が「乙吉のだるま」で、1901年に出版された『日本雑記』に収録されました。

「乙吉のだるま」では、神棚に飾ってあった片目のだるまを見て驚いた八雲が、乙吉から、目なしだるまに願掛けをして片目を描き入れ、願いが叶った時に、もう片方の目を描き入れる日本の習俗があることを教えてもらいました。じつは、八雲の目に留まつたるまは、1897年（明治30）頃から張子だるまの製造を始めた内田だるま店（のち藤枝だるまへ改称）3代目・内田作太郎（1873-1929）が作ったものでした。乙吉と親交があったという作太郎は、左目を失明していた八雲が片目ないだるまに興味をもったという話を聞いて、だるまの両頬の鬚（ひん）に8の字ひげを描くようになったともいわれています。以来、8の字ひげは藤枝だるまのトレードマークになり、八雲だるま・乙吉だるまと呼ばれて親しまれてきました。

藤枝だるまは、「県内ダルマ中、随一の美男子」（『ふるさと百話』5）とも評され、県内各地の寺社のだるま市へ出荷され、最盛期には年間1万個が製造されました。

明治・大正・昭和・平成と、5代約180年にわたり伝統を守った老舗の藤枝だるまでしたが、2015年、5代目長橋秀明氏が病に倒れたことを機に、廃業のやむなきに至りました。2025年、長橋家より、藤枝だるま伝統の木型や玩具資料を一括で当館にご寄贈いただいたことに伴い、だるま・練人形・張子面に関する各種資料を一挙公開し、小泉八雲が愛した藤枝の伝統工芸「藤枝だるま」の歴史あれこれと、県内各地のだるまを紹介します。



「乙吉のだるま」を収録した
『日本雑記』と、『怪談』初版本
(又木克昌氏・静岡福祉大学附属図書館所蔵)



藤枝だるまの木型と完成品
左より、耳付きだるま・八雲だるま（後列）・
かぼちゃだるま（前列）・高八だるま



木型から再現した藤枝張子面
2001年（長橋秀明氏製作・当館蔵）



藤枝練人形の木彫原型 明治時代
【写真の木型はすべて当館蔵・長橋家寄贈】

講演会・ギャラリートーク

定員/80名、参加料/①・②=入館料、③・④=受講料【中学生以下無料】、
申込み/①・②=不要、③・④=必要 電話・メール・二次元コードで博物館へ

①ギャラリートーク「小泉八雲と藤枝だるま」

日本のだるま研究の第一人者が、だるまの習俗や県内のだるまの歴史・産地について分かりやすく解説します。

●2月22日(日) 11:00～12:00 14:00～15:00

●講 師 林 直輝さん（日本人形文化研究所 所長、
全日本だるま研究会副会長）【入館者対象・申込不要】



②藤枝だるまトークイベント

「藤枝だるまの民俗と幻の藤枝練人形の復元」

今から30年前に藤枝だるま5代目・長橋秀明氏の仕事場を長期取材した際の貴重な報告と、「藤枝練人形」復元に向けた調査研究報告を行います。

●3月7日(土) 14:00～15:30 【入館者対象・申込不要】

●講 師 松永 都さん（民俗学研究家、
薮崎理恵さん（日本雪だるまの会会員・絵付け体験教室講師）

③講演会『英語で読み解く小泉八雲Otokichi's Daruma「乙吉のだるま」』

八雲の隨筆「乙吉のだるま」の英語原文を楽しく読み解きながら、
乙吉の人柄や八雲の人生への理解を深めます。

●3月8日(日) 13:30～15:30

●講 師 又木克昌さん（小泉八雲愛好家・シェイクスピア研究家）
●受 講 料 大人300円・中学生以下無料
●申 込み 電話・メールまたは右記二次元コードから



④記念講演会「小泉八雲と妻セツー『黒い蜻蛉』・『怪談』を訳してー」

小泉八雲の小説や『怪談』を翻訳して注目を集める翻訳家が、八雲とセツの人生や、「日本人とは何か?」の問い合わせを解説します。『怪談』の朗読もあります！

●3月21日(土) 14:00～15:30

●講 師 小宮 由さん（翻訳家）
●受 講 料 大人500円・中学生以下無料
●申 込み 電話・メールまたは
右記二次元コードから



ミュージアムコンサート

定員/各回80名（先着順）※申込不要 参加料/大人300円・中学生以下無料

○薩摩琵琶弾き語り「耳なし芳一」

●2月28日(土) 11:00～12:00 14:00～15:00

●出 演 錦心流薩摩琵琶 全国一水会
静岡中央支部

●演 目 耳なし芳一（小泉八雲『怪談』より）、他2曲



○小串翔ピアノコンサート「ピアノで旅する小泉八雲」

●3月22日(日) 11:00～11:45 14:00～14:45

●出 演 小串翔さん（ピアノ）・又木克昌さん（語り）

●曲 目 ヘンリック・ノルドグレン「小泉八雲の『怪談』によるバラード」
より「雪女」「無間鐘」、ショパン「ノクターン作品9」、
ジョン・フィールド「ノクターン第9番」など



○小泉八雲が育ったアイルランドの民族音楽

「境界を越える音、ケルト音楽の世界」

●3月29日(日) 11:00～12:00 14:00～15:00

●出 演 浜松ケルトの会

●曲 目 Merrily Kissed The Quaker's Wife、
Lucy Farr's Fox Hunter's Reel など



藤枝張子だるま・練人形の絵付けワークショップ

○体験学習「ミニ藤枝張子だるまとお面の絵付け」

●2月21日(土)～4月12日(日)

●受付時間 9:00～16:00 【月曜休館】

●参加費 300円～500円 *申込不要



○幻の藤枝練人形「虎」の絵付け

●3月20日(祝)、29日(日)

両日とも10:00～12:00、13:30～15:30

●講 師 薮崎理恵さん ●定 員 各回8名（申込順）

●参加費 1体1,000円 ※小学生以下は保護者同伴

●申 込み 電話・メールまたは右記二次元コードから

